

ウミガメ保護活動でお世話になった地域にもち米栽培で恩返し

文部科学大臣賞 鹿児島県 肝付町立岸良学園

毎年ウミガメが上陸し卵を産むことで知られる岸良海岸が校区にある同校。2021年に義務教育学校として開設し、1年生から9年生の児童生徒が恵まれた自然環境を生かした活動に取り組む。最大の特徴は、「ウミガメ科」という独自の教科を取り入れ、学年に沿ったテーマを組んで学びを深めていることだ。なかでも、旧岸良小学校時代から25年以上続く「ウミガメ保護活動」は、保護者や住民の協力が欠かせない地域行事になっている。ウミガメの産卵シーズンには、住民らによる砂浜巡回活動がスタート。上陸情報に基づき、児童生徒は採卵し、同校の敷地にある「ウミガメハウス」に移し保護する。ふ化するまでの間、気温や湿度、砂の温度や雨量などを毎日決まった時間に観測し、記録する。ふ化後は、放流会を実施。関心を寄せる住民にも声をかけ、子ガメが海に向かう姿を地域一体となって見送る。

「ウミガメ科」開設に伴い、かごしま水族館と連携協定を結んだ効果も顕著だ。同校での記録データを水族館に提供したり、同館の学芸員を招聘し、住民たちも招待してウミガメ講演会を開催したりと、貴重な知識や情報が行き交う関係性が築かれている。その一連の取り組みは、ウミガメ保護という側面だけではなく、ふるさとの環境保護意識向上にもつながった。住民と年2回行う岸良海岸の清掃活動では、海外由来の漂着ごみに着目した児童生徒が、自分たちが今できることに挑戦中だ。景観保全活動も活発で、休耕田を利用したもち米栽培では、田植えや稲刈りなどを体験後、地域に販売提供。楽しみにしている住民も多く、岸良地区公民館長の中原栄子さんは、「活動を通じつながりができた子どもたちの頑張る姿を見て、我々大人は常に元気もらっています」とほほえむ。義務教育学校のメリットを生かし、課題にじっくり向き合った児童生徒は、町内外で行われる発表会で発信。

同校のある肝付町には、JAXAのロケット発射場がある。校舎からもロケットの打ち上げが見え、みんなでカウントダウンしながら盛大に打ち上げを見守る。宇宙に飛び立つロケットと大海原に繰り出すウミガメ。ともに子どもたちの夢や希望をのせて彼方に送り出す壮大なイベントは、郷土愛を育みながらこれからも連綿と受け継がれていく。



鹿児島県 肝付町立岸良学園 (きしらがくえん)

学校長：西 康隆 (にし やすたか)

児童生徒数：児童 11 名 生徒 9 名 (2024 年 11 月末現在)

住所：鹿児島県肝付郡肝付町岸良 207-1

電話：0994-68-2014

アクセス：鹿児島空港から車で約 2 時間

上：ウミガメが上陸産卵する美しい白砂の岸良海岸、2 左：採卵したウミガメの卵をウミガメハウスに埋め戻す、2 右：ふ化したウミガメを放流する様子、3 左：おびただしい数の漂着ごみを住民とともに回収、3 右：生徒が栽培したもち米は住民に大人気、下：学習会や講演会などウミガメ科で学んだことを地域内外に発信